NHK 報道内容(2024 年 3 月 16 日)の考察
アルプスの森(施設長:宇津慎史)の「嘘」「隠蔽」「捏造」

2024 年 3 月 16 日

NHK が放課後デイサービスの抱える問題・課題に関し報道した。

しかし遺族としては、アルプスの森(施設長:宇津慎史)が起こした事件の問題点は、全国の放課後デイサービスが抱える問題・課題以前のものであり、自己都合に合わせ繰り返された「嘘」「隠蔽」「捏造」であると認識している。

▶2024 年 3 月 16 日の NHK News Web で放課後デイサービスにおける、行方不明及び死亡に関して NHK が独自に調査した結果を報道。以下内容が主な報道内容。

放課後デイサービスの施設を管轄する自治体のうち、人口の多い 10 都道府県とその政令都市・中核市に情報公開請求を行い、子供が一時的に行方不明になったケースが昨年度までの 5 年間で少なくとも 339 件に上っていたことが解ったとのこと。

記事によると都道府県別では、神奈川(94 件)、大阪(71 件)、埼玉(34 件)、愛知(29 件)、福岡(28 件)、東京(24 件)、兵庫(22 件)、千葉(18 件)、北海道(10 件)、静岡(9 件)。このうち死亡したケースが悠生君の事件も含め 3 件あったとのこと。

神戸の施設において、2021 年 8 月、駐車場で夏祭りを行っている最中に当時 6 歳の男の子が行方不明になった。姿が見えなくなっていることに職員が気づき、施設は警察に通報するとともに、母親にも連絡して周囲を捜索。警察や市によると、施設から 1 キロほど離れた運河で男の子が見つかり、その後亡くなった。

愛知県岡崎市でも 2021 年 7 月、当時 9 歳の男の子が施設から行方不明になり、5 日後に川で死亡しているのが見つかったとのこと。

他に NHK は放課後デイサービスの抱える問題・課題として、
① 親が行方不明事故を起こした施設に対して、苦情を言いにくい状況であること。
② スタッフの人員不足
③ 職員の知識や経験不足
④ 自治体の状態把握
に関して言及しており、対応策として

① 「量」から「質」への転換の必要性、
② こども家庭庁のコメントを以下のように紹介している。
「事業者に対しては法令上、1.都道府県・市町村への事故の報告、２．安全管理のための設備の点検や職員への研修等について定める『安全計画書』の策定を義務づけているところです。これに加え、2023 年度、障害児支援における事故等の実態把握を進めており、その結果を踏まえ、引き続き安全確保に向けた取り組みの徹底を図っていきたい」

▶悠生君の死亡事件に関し、上記内容でアルプスの森(施設長:宇津慎史)の問題を考慮すると以下のようになると考えられる。

【　問題点　】

① 親が行方不明事故を起こした施設に対して、苦情を言いにくい状況であること。

→　・そもそも過去に少なくても 2 件、行方不明になった事があったことを施設側は『隠蔽』していた。
　自治体にも、保護者にも報告義務があるにも関わらず報告をしていなかった。
　従って、ＮＨＫの今回の報道において、アルプスの森(施設長:宇津慎史)のように、行方不明事故を日常的に隠蔽している施設が他にもあると考えられるため、実数把握は不可能と思われる。
　自治体に報告しているのはあくまでも良心的な施設か、アルプスの森(施設長:宇津慎史)のように隠しきれないレベルの状況に陥った施設のみと思われる。
・さらには、保護者や他の悠生君が通っていたデイサービスのスタッフ、支援学校の先生方には、送迎はしっかりと 2 名で対応していると『嘘』の説明をし続けていた。

② スタッフの人員不足
→　・少なくても悠生君の送迎を 2 名体制にして行う約束をしていたのは、送迎車と施設玄関の間の 4m 足らずの距離の移動のみである。
　実際に 2 名で対応しなくてはいけない時間は 5 分にも満たない。従って、悠生君が通っていたもう一つの放課後デイサービスでは、問題なく 2 名以上のスタッフでの対応ができていた。
・さらには、アルプスの森(施設長:宇津慎史)は、兄の宇津雅美、従業員の緒方日出海の 3 人で一人の施設利用者の少年に対し、10 分以上にわたり日常的に暴行を加えており、スタッフ不足が問題ではないと思われる。
・少なくても、保護者や他の悠生君が通っていたデイサービスのスタッフ、支援学校の

先生方に対して、過去に一度も、アルプスの森(施設長:宇津慎史)が、スタッフ不足の問題があり、送迎に 2 名で対応することは難しいと発言したことはなかった。

③　職員の知識や経験不足

→　・アルプスの森(施設長:宇津慎史)は、過去に悠生君を行方不明な状態に陥らせていたが、その事実を『隠蔽』していたことが判明している。

支援学校や、他の放課後デイサービスでは、悠生君を行方不明にさせた経験をしたスタッフはいない。

・さらに悠生君が神崎川に飛び込もうとしたところを、職員が捕まえたとの事があったが、その事実もアルプスの森(施設長:宇津慎史)は『隠蔽』していたことが現在、判明している。

明確に悠生君が神崎川に飛び込む意思があったことを認識していたのは、アルプスの森(施設長:宇津慎史)側のスタッフのみである。

・また悠生君の死亡事件後に警察などが押収した資料(ヒヤリハット報告書)において、送迎時に「悠生君の体をしっかりと確保すること」「悠生君の誘導を行う時は単独のスタッフでは行わないこと」これを守らないと命に関わることになると記載していたことも判明している。

度重なる同様のヒヤリハットケースに、同じような対策を繰り返しあげており、理解していた対策を実行に移さずに漫然と危険な状況を、アルプスの森(施設長:宇津慎史)は、放置し続けていた。

従って、悠生君の命に危険な状況であることを認識しながら、その状況を経験し続けていた。支援学校や、他の放課後デイサービスでは、そのような知識や経験をしたスタッフはいない。

アルプスの森(施設長:宇津慎史)は、秘密裏に過去にも何度も危険な誘導を繰り返し、悠生君の飛び出しを何度も経験していた。従って、悠生君の飛び出しリスクを最も把握しており、実際に飛び出しの経験を最も多くしていたのは、アルプスの森(施設長:宇津慎史)側の職員であった。

④　自治体の状況把握

→　・吹田市への事故報告書の内容の殆どが虚偽内容であることが判明している（事故の流れ「令和 6 年 2 月 12 日」記載の「事故報告書(令和 5 年 9 月 10 日付)」及び、不誠実対応-44 を参照)。

虚偽内容の報告を自治体が取り締まる事を行っていない限り、状況把握は不可能である。

【　対応策　】

①「量」から「質」への転換の必要性、

②　こども家庭庁のコメント

→　・悠生君の遺族としては、勿論、全国の行方不明や死亡事故の状況から考え、障害児童の安全確保は最重要課題であり、我が国における喫緊の課題であると認識している。

しかしながら、アルプスの森(施設長:宇津慎史)の起こした事件は、専門性や知識の問題ではない。

アルプスの森(施設長:宇津慎史)が起こした死亡事件の根本的な原因は、『嘘』であり『隠蔽』であり『捏造』である。

高い専門知識や経験を得たとしても、アルプスの森(施設長:宇津慎史)が繰り返し行ってきたような、自己都合に合わせた『嘘』『隠蔽』『捏造』が蔓延ると児童の安全は確保できないことは明らかである。

アルプスの森(施設長:宇津慎史)のように施設自体に、子供の命を守る意思が全くない状態では、安全対策に必要な知識や経験は、子供の命を守る事に役立たない。

さらにアルプスの森(施設長:宇津慎史)の『嘘』『捏造』は、悠生君が命を落とした事件発生後にも繰り返された。真摯な対応をしなくては、再度、利用者の死亡が発生する可能性が高い状況にあるにも関わらず、事故の真相を『隠蔽』した状態で、『嘘』の事故報告に基づいた安全対策を作成し、通常通りに開所を続けた。

遺族としては、このような倫理観の欠如した施設運営が罷り通る状況をなくす必要があると認識している。